

# 海洋速報について（黒潮の変動）

海上保安庁海洋情報部環境調査課 小林 研太

## 1. はじめに

本庁で解析している海洋速報は、海難防止と航海安全、海難発生時の漂流予測、船舶の経済的な運航、漁業、海洋レジャー活動、科学的基礎資料など様々な目的で日々発行し、ホームページに公開している。

ホームページでは、海洋速報のほかに、2日先の海況を解析する海流推測図、その他のコンテンツとして表面水温図、表面水温偏差図、衛星水温画像、海流水温合成図、黒潮ファイブ(黒潮の変動)等を公開している。本発表では、上記のうち海洋速報で公開している海流図(津軽暖流)、海流推測図(親潮)の解析手法と黒潮大蛇行に伴う広報をおこなったため、最近の黒潮変動について紹介する。

## 2. 本庁海洋速報

海洋速報の海流図(津軽暖流)、海流推測図(親潮)では流れの観測値と水温の観測値を参考にして解析をおこなっている。流れの観測値では、測量船のほか、関係機関船舶や一般船舶から提供していただいている海流情報に加え、当庁の漂流ブイ、NEAR-GOOSにより取得した海流情報を使用している。水温の観測値では、人工衛星による表面水温、測量船で観測したXBT・XCTDによる100m深水温のほか、水産試験場や水産高校から送付していただいている100m深水温データ、気象庁の海洋同化データ、アルゴフロート等を使用しており、これらの参考情報から総合的に判断して流線を解析している。

図1. 海洋速報 海流図

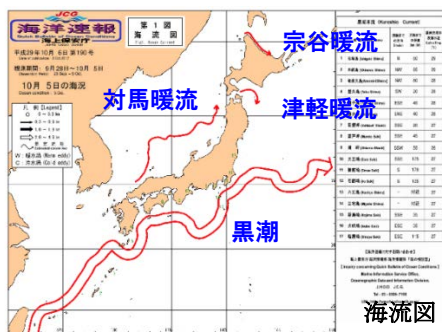


図2. 海流推測図

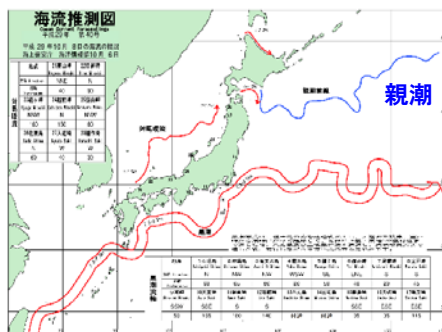


図3. 当庁の漂流ブイの軌跡

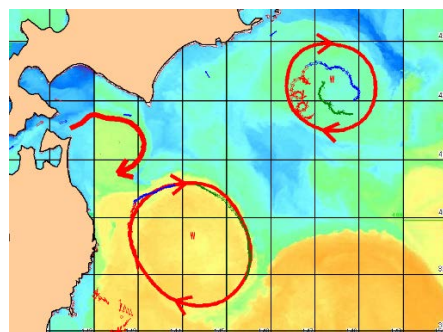
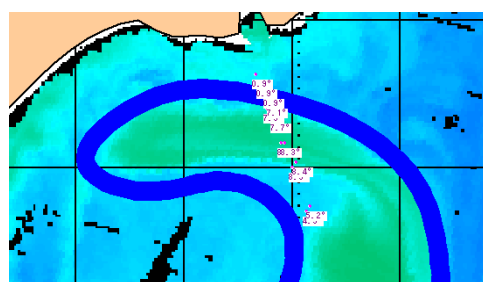


図4. 関係機関船舶の水温観測値



### 3. 最近の黒潮変動

黒潮は8月下旬から、紀伊半島から東海沖で大きく離岸して流れる状態が続いており、黒潮大蛇行を判定する、潮岬で黒潮が安定して離岸していること、東海沖（東経136～140度）の流軸の最南下点が北緯32度よりも南に位置していることの2つの条件があるが、今般、それを満たしたと判断し、9月下旬に気象庁と合同で12年ぶりに黒潮が大蛇行している旨、報道発表をおこなった。この状況は、海上保安庁の測量船データからも確認された。

### 4. まとめ

本庁で解析している海洋速報は流れの観測値、水温のデータ等の参考資料から総合的に判断して流線を解析している。

最近の黒潮変動では、黒潮大蛇行と判断する2つの条件が満たされたと判断し、9月下旬に気象庁と合同で報道発表をおこなった。12月現在も大蛇行型が続いており、黒潮の流路の変動は、船舶の運航や漁業に影響があるほか、潮位が上昇することで、沿岸の低地で浸水などの被害が生じる可能性があるため、今後も日々変動する黒潮流路を注意深く監視していくことに勤めたい。